

平成 29 年度 地域公開参観日 校長講話「たいせつなきみ」

4月の参観日の最後に、「子育てでは、いろいろ難しいこともあります、根っこに、『あなたはかけがえのない存在なんだよ』という思いが伝わっていれば大丈夫です。自分は愛されている、愛されてきたんだというものがあれば、困難な場面に直面しても自分を大切にしていれば、周りの人も同じように大切にしていれば乗り越えていくことができると思います。」とお話ししました。今日は、その続きのお話をします。

＜絵本「たいせつな きみ You Are Special」

マックスルケード作 セルジオマルティネス絵 ホーバード豊子訳の読み聞かせ＞

お話の中でエリが「もんだいはね このわたしが どう思っているということだよ。そして わたしは おまえのことを とてもたいせつだと思っている」と語っているところが私は好きです。また、このお話から色々な事を考えさせられます。みなさんもご自分で感じられたことを大切にしていただければと思います。

もう一つ伝えたいことがあります。それは、「完璧でなくてもいい」ということです。親として子どもの前では「いつもちゃんとしていなければいけない」「いつもかっこいい親でいなければいけない」「弱みや失敗したところなんか見せられない」と思って頑張りすぎている人に向けた私からのメッセージです。そうやって頑張っている姿ばかりを見せているとしたら、時には、隠さずかっこ悪い姿や弱みを見せてもいいと思います。



私の父は、大正生まれの大変厳しい父親でした。戦争にも行っていたことがあり、手が早く少し怖い人でした。悪さをすればすぐに手が飛んできました。「巨人の星」の星一徹の

ようでした。絶対逆らえない、弱みなんかかけらも感じさせない存在でした。

私が小学校の高学年のころ父が意外なことを私に聞いたことがありました。「おい秀敏、この図面の面積と体積はどうやって計算するんだ？」と。当時父親は土木の仕事をしていて、小さな現場を任されて、川の流れをゆるやかにするためのダムを造っていたようです。私はとにかく驚きました。台形の面積そして体積の計算を知らないということ。そして、それを子どもに聞くということ。あの父親からは考えられないことでした。そのとき、私は「ふだん偉そうにしているけど、そんなことも知らないのか」とは思いませんでした。教えて役に立っていることに喜びを感じ、父親を少し近く感じました。そして、「あのおっかない父だって知らないことは人に聞くんだ。人に聞くってそんなにはずかしいことじゃない」ということを思ったのです。

弱みやかっこ悪い姿を見せることはマイナスではないということ。その弱さやカッコ悪さを見て、そうだよなそんな時だってあるよな、とほっとする。お父さんやお母さんだって失敗したことあるよな。失敗した後が大事なんだよな。そんなことを子どもたちが学んでいけばいいのではないかと考えています。

頑張りすぎているお父さんお母さんがいたら、かっこつけすぎずに、無理をしすぎずに、時には子どもを頼りにしてみてもいいかなと思います。